感動は美しい座り方から

昨日は、女子一名が高校見学の報告に来ました。私は校長室の机の前に椅子を準備しました。

優しいノックの後「失礼します」と言って、礼儀正しくその生徒は入ってきました。椅子の横に立った彼女に、私は座るように促しました。再び「失礼します」と言って、彼女は静かに座りました。

その姿に私は驚きました。背もたれに背をつけないように背筋を伸ばして座る姿。膝とつま先をそろえて美しく座る姿。そして、両手の指先を重ね、膝の上に上品に置いて座る姿。いきなりその姿を目の当たりにした私は、思わず彼女に尋ねてしまいました。

「座り方をだれかに教えてもらったの？」

その質問に対する彼女の回答を聞いて、再び驚きました。

「卒業式の時の座り方をしただけです。」

そうです！そうです！毎年卒業式前に、私たち教師は改まった場での座り方を生徒たちに指導します。彼女はそのとき指導された座り方をやっただけなのです。

毎年卒業式前に指導するということは、生徒たちに力として身についていないということです。しかし、その生徒は違いました。卒業式の座り方として指導されたことを、実際に校長室で、私を前にしたときに発揮したのです。これがまさしく「生きてはたらく力」なのだと私は実感しました。

「卒業式ではこのように座るのだ」と理解できている生徒はいるでしょう。しかし、それは単なる知識であって、力として発揮されるかどうかはわかりません。むしろ、発揮されないから、毎年同じ指導が必要になります。

三つ目に驚いたのは、その生徒の受け答えの仕方です。緊張すると目が泳いだり視線をそらせたりする者が多い中で、彼女は私から視線をそらすことなく語りました。時折笑顔を交えて余裕のあるところも見せてくれました。

最後に驚いたのは、彼女の語る内容です。印象に残ったことを尋ねたのですが、多くのことを語ってくれました。お目当ての科についてはもちろん、他の科のことについてもしっかり見てきたようで、丁寧かつ具体的に報告してくれました。たった五分程度の報告でしたが、感動と報告内容が豊富だった分、十分以上彼女と向き合っていた感じがしました。

彼女には面接指導は要りません。すでに面接の基本が身についています。「この人ともっと話してみたいな」と相手に思わせる時間が作れれば、面接など「恐るるに足らず」ですね。

（十月三十日 記）